

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-175934

(43)Date of publication of application : 09.07.1996

A61K 7/06

(71)Applicant : AJINOMOTO CO INC

(72)Inventor : KITAZAWA MANABU
YOSHIDA TOSHIHARU
NOGUCHI YASUNOBU

(54) HAIR COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a hair cosmetic capable of providing smoothness and pliability and having good combing property and improved in rinsing property in washing away.

$$\begin{array}{c} R^1 - CO - NH - CH - COOR^2 \\ | \\ CH_3CH_2CH_2 - N - C(=O)NH \\ || \\ NF \end{array}$$

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 27.04.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3404938

[Date of registration] 07.03.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-175934

(43) 公開日 平成8年(1996)7月9日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 K 7/06

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平6-314650

(22) 出願日 平成6年(1994)12月19日

(71) 出願人 000000066

味の素株式会社

東京都中央区京橋1丁目15番1号

(72) 発明者 北澤 学

神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央研究所内

(72) 発明者 吉田 俊春

神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央研究所内

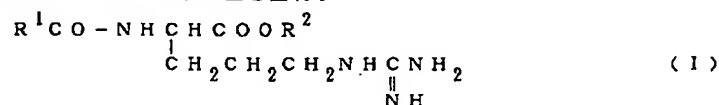
(72) 発明者 野口 泰信

神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央研究所内

(54) 【発明の名称】 毛髪化粧料

(57) 【要約】

【構成】下記一般式 (I) で表される N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステルまたはその塩を含有す*



(式中、R¹ CO-は、炭素原子数8～22の飽和または不飽和の脂肪酸アシル基を、R² は、イソプロピル基またはイソブチル基を表す。)

【効果】毛髪へのなめらかさ及びしなやかさの付与、櫛

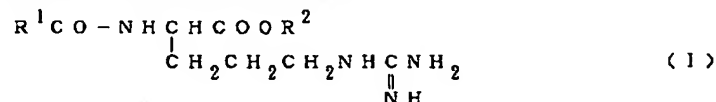
* ることを特徴とする毛髪化粧料。

【化1】

通り性及び洗い流し時のすすぎ性の点で優れたものである。また皮膚や粘膜に対する刺激が低く、安全性の高いものである。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 下記一般式 (I) で表される N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステルまたはその塩を含む



(式中、R¹ CO-は、炭素原子数 8～22 の飽和または不飽和の脂肪酸アシル基を、R² は、イソプロピル基またはイソブチル基を表す。)

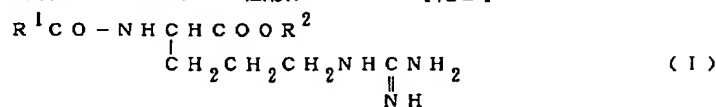
【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、毛髪化粧料に関し、詳しくは、毛髪になめらかさ及びしなやかさを付与し、櫛通り性がよく、洗い流し時のすすぎ性を改善した毛髪化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来よりシャンプー、リンス、ヘアコンデショナー、ヘアトリートメント等の毛髪化粧料には、髪になめらかさを付与し、ばさつきを抑える等の目的でアルキル第四級アンモニウム塩、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸アルキルエステル塩等のカチオン界面活性剤が添加されている(特公昭 62-29402 号公報)。このうち N-長鎖アシル塩基性アミノ酸アルキルエステル塩は、皮膚や粘膜に対して低刺激であるため、毛髪化粧料の配合成分として好ましいものである。しかしながら、現在毛髪化粧料によく使用されている N α -長鎖アシルアルギニン低級アル



(式中、R¹ CO-は、炭素原子数 8～22 の飽和または不飽和の脂肪酸アシル基を、R² は、イソプロピル基またはイソブチル基を表す。)

【0005】 上記一般式 (I) で表される N α -長鎖アシルアルギニンエステルまたはその塩のアシル基としては、炭素原子数 8～22 の飽和もしくは不飽和の天然または合成脂肪酸から誘導されるアシル基であり、例えばラウロイル基、ミリストイル基、パルミトイル基、ステアロイル基等の単一脂肪酸残基のほか、ヤシ油脂肪酸アシル基、牛脂脂肪酸アシル基等の天然の混合脂肪酸アシル基であってもよい。また R² としては、イソプロピル基またはイソブチル基であるが、イソプロピル基のほうがより好ましい。

【0006】 塩としては、塩酸塩、硫酸塩等の無機酸塩、酢酸塩、クエン酸塩、p-トルエンスルホン酸塩、脂肪酸塩、酸性アミノ酸塩、L-または D L-ピロリドンカルボン酸塩等の有機酸塩が用いられ、その中でも塩酸塩、L-または D L-ピロリドンカルボン酸塩が好ま

* 有することを特徴とする毛髪化粧料。

【化 1】

※ キルエステル塩は、毛髪のしなやかさ、櫛通り性に関しては、やや不足気味であった。この点を解決する方法として、特開平 2-764 号公報には、エステル基を長鎖アルキル基に代えた N α -長鎖アシルアルギニンエステル塩を配合することが提案されているが、仕上がりに感についてアルキル第四級アンモニウムクロライドと比較した場合には、十分に満足できるものではなく、また洗い流し時のすすぎ性についても改善が求められていた。

【0003】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、上記課題を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、特定の N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステル塩が、従来知られていた N α -長鎖アシルアルギニンアルキルエステル塩と比較して優れた仕上がりを与え、洗い流し時もすすぎ性がよいことを見だし、この知見に基づいて本発明を完成するに至った。

【0004】 すなわち、本発明は、下記一般式 (I) で表される N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステルまたはその塩を含むことを特徴とする毛髪化粧料に関する。

【化 2】

しい。

【0007】 このような N α -長鎖アシルアルギニンエステルは公知の方法、例えば脂肪酸クロライドをアルギニンのアルカリ溶液に加えることにより N α -長鎖アシルアルギニンとした後、アルコールと酸触媒存在下に脱水エステル化を行うことにより容易に製造することができる。

【0008】 上記 N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステルまたはその塩はそれらのいずれか一種を単独で使用することもできるが、二種以上を併用することも可能である。また本発明の効果を損なわない範囲内でアルキル第四級アンモニウム塩等の従来のカチオン界面活性剤と併用することもできる。

【0009】 本発明の毛髪化粧料における N α -長鎖アシルアルギニン分岐アルキルエステルまたはその塩の配合量は通常 0.01～20 重量%以上、好ましくは 0.01～10 重量%である。

【0010】 本発明の毛髪化粧料にはアニオン界面活性

剤、両性界面活性剤、ノニオン界面活性剤、多価アルコール、油脂、高分子化合物、乳化剤、保湿剤、キレート剤、Nε-ラウロイルリジン等の機能性粉体、感触向上剤、過脂剤、生薬等の薬剤、エタノール、粘度調整剤、防腐防黴剤、パール化剤、抗炎症剤、紫外線吸収剤、pH調整剤、香料、色素等毛髪化粧料に通常用いられる成分を配合することができる。そのような成分としては、例えば以下のようなものがあげられる。

【0011】アニオン界面活性剤としては、例えば高級脂肪酸塩、N-長鎖アシルグルタミン酸、N-長鎖アシルアスパラギン酸、N-長鎖アシルグリシン、N-長鎖アシルアラニン、N-長鎖アシルスレオニン、N-長鎖アシルザルコシン、N-長鎖アシル-β-アラニン、N-長鎖アシル-N-メチル-β-アラニン等のN-アシルカルボン酸またはその塩、エーテルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、スルホコハク酸塩、N-アシルスルホン酸塩、O-アシルスルホン酸塩、アルキル硫酸塩、エーテル硫酸塩、アルキルリン酸塩等を挙げることができる。

【0012】両性界面活性剤としては、例えばアルキルベタイン、スルホベタイン、イミダゾリニウムベタインを挙げることができる。

【0013】ノニオン界面活性剤としては、脂肪酸アルカノールアミド、アルキルグリコシド、糖アルコールヒドロキシ脂肪族エーテル誘導体等を挙げることができる。

【0014】高分子化合物としては、アラビアゴム、トラガントガム、グァーガム、ローカストビーンガム、カラヤガム、アイリスモス、クインスード、ゼラチン、セラック、ロジン、カゼイン、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、メチルセルロース、エチルセルロース、アルギン酸ナトリウム、エステルガム、ニトロセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ポリビニルメチルエーテル、ポリアミド樹脂、シリコン油、キチン、部分脱アセチル化キチン、加水分解コラーゲン、ポリアスパラギン酸、ポリグルタミン酸ナトリウム等を挙げることができる。

【0015】本発明の毛髪化粧料の剤型は特に制限されず、液体、ペースト状、ゲル状、固体、粉末等任意の剤型とすることができる。本発明の毛髪化粧料は、毛髪用の洗浄剤を含めた化粧料として適するもので、シャンプー、コンディショナー、リンス、ヘアムース、毛髪用石鹸等として用いることができる。

【0016】

【発明の効果】本発明の毛髪化粧料は、従来のN-長鎖アシル塩基性アミノ酸アルキルエステル塩配合のものと比較して、毛髪へのなめらかさ及びしなやかさの付与、櫛通り性及び洗い流し時のすすぎ性の点で優れたものである。また本発明の毛髪化粧料は、従来のN-長鎖アシル塩基性アミノ酸アルキルエステル塩配合のものと同様に皮膚や粘膜に対する刺激が低く、安全性の高いものである。

【0017】

【実施例】次に、実施例により本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0018】製造例1

イソプロパノール60mlに塩化チオニル10ml及び特開昭48-18437号公報記載の方法により製造したNα-ラウロイル-L-アルギニン塩酸塩10gを加え、室温で一晩攪拌した。反応液を減圧濃縮し、得られた油状物をクロロホルムに溶解して10%食塩水で洗浄した。クロロホルム溶液を硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を留去してNα-ラウロイル-L-アルギニンイソプロピルエステル塩酸塩7gを得た。

【0019】製造例2

イソプロパノールの代わりにイソブタノールを用いた場合は製造例1と同様の方法により、Nα-ラウロイル-L-アルギニンイソブチルエステル塩酸塩を製造した。

【0020】製造例3

Nα-ラウロイル-L-アルギニン塩酸塩の代わりにNα-ココイル-L-アルギニン塩酸塩を用いた場合は製造例1と同様の方法により、Nα-ココイル-L-アルギニンイソプロピルエステル塩酸塩を製造した。

【0021】製造例4

Nα-ラウロイル-L-アルギニン塩酸塩の代わりにNα-ココイル-L-アルギニン塩酸塩を用いた場合は製造例2と同様の方法により、Nα-ココイル-L-アルギニンイソブチルエステル塩酸塩を製造した。

【0022】試験例1

表1に示す組成の毛髪化粧料を調製し、男女各10人の専門パネラーに使用させ、洗い流し時のすすぎ性、乾燥後の毛髪へのなめらかさ、しなやかさ及び櫛通り性を官能評価により評価した。評価は、下記の基準により行い平均値を求め、1~2を(×)、2.1~3を(△)、3.1~4を(○)、4.1~5を(◎)で表した。

【0023】非常によい(5)、よい(4)、普通(3)、あまりよくない(2)、悪い(1)

【0024】

【表1】

	実施例				比較例								
	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩	1.0												
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩		1.0											
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩			1.0										
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩				1.0									
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩					1.0								
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩						1.0							
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩							1.0						
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩								1.0					
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩									1.0				
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩										1.0			
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩											1.0		
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩												1.0	
Nα-β-イソロイド-L-7Hキ・ニソイ7* de* 残塩													1.0
トリメチルアミンニソイ7* de* 残塩													
セタノール	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
グリセリン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
モノステアリン酸グリセリン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
精製水	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部
なめらかさ	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎
しなやかさ	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎
掃通り性	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎
すすぎ性	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎

【0025】表1から明らかなように本発明の毛髪化粧料は、従来のN-長鎖アルギニンアルキルエステル塩を配合したものと比較して、仕上がりが、掃通り性、すすぎ性の点で優れており、アルキル第四級アンモニウム塩を配合したものとほぼ同等のものであることがわかる。

【0026】実施例5、6 シャンプー

表2、3に示す配合組成物を70～80℃で加熱溶解し、その後室温まで冷却してシャンプーを得た。本品は洗い流し時のすすぎ性が良好であり、洗い上がり感も十分満足のいくものであった。

【0027】

【表2】

組 成	配合量
N α -ラウロイルアルギニンイソプロピルエステル塩酸塩	0.1
N-ココイルグリシンK	4
N-ココイル-L-グルタミン酸TEA	2
ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸Na	10
ラウリン酸モノエタノールアミド	1
プロピレングリコール	5
カチオン性ポリマー(「マーコート100」、メルク社)	0.3
防腐剤	0.1
香料	0.1
EDTA-Na	0.1
精製水	残部

【0028】

* * 【表3】

組 成	配合量
N α -ココイルアルギニンイソブチルエステル塩酸塩	0.5
N α -ココイル-L-アルギニン塩酸塩	0.1
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	15
ヤシ油脂脂肪酸ジエタノールアミド	5
D,L-ピロリドンカルボン酸Na	5
両性ポリマー(「ブラサイズL-401」、互応化学)	0.8
クエン酸	0.5
防腐剤	0.1
香料	0.1
精製水	残部

【0029】実施例7～9 リンス

30※足のいくものであった。

表4～6に示す配合組成物を70～80℃で加熱溶解

【0030】

し、その後室温まで冷却してリンスを得た。本品は洗い

【表4】

流し時のすすぎ性がよく、乾燥後の仕上がり感も十分満※

組 成	配合量
N α -ラウロイルアルギニンイソブチルエステル塩酸塩	5
ポリオキシエチレン(3)スルホコハク酸Na	5
ココイルイセチオン酸Na	2
ピログルタミン酸オレイン酸グリセリル	1
N-ラウロイル- β -アラニンTEA	1
モノステアリン酸ポリエチレングリコール	0.5
エモリエント油剤「エルデュウCL-301」	3
配合湿潤剤「プロデュウ100」	5
防腐剤	0.1
香料	0.1
精製水	残部

【0031】

【表5】

組 成	配合量
N α -ココイルアルギニンイソブチルエステル塩酸塩	1
イソステアリン酸ジエタノールアミド	2
セタノール	2
流動パラフィン	1
ポリオキシエチレン(5)オレイルエーテル	0.3
1,3-ブチレングリコール	5
トリメチルステアリルアンモニウムクロライド	0.1
ヒドロキシエチルセルロース	0.5
防腐剤	0.1
香料	0.1
精製水	残部

【0032】

* * 【表6】

組 成	配合量
N α -ココイルアルギニンイソプロピルエステル塩酸塩	6
セタノール	6
グリセリン	3
部分脱アセチル化キチン	0.5
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン	0.2
防腐剤	0.1
N ϵ -ラウロイルリジン	微量
精製水	残部

【0033】実施例10、11 ヘアコンデショナー ※た。

表7、8に示す配合組成物を70~80℃で加熱溶解 【0034】

し、その後室温まで冷却してヘアコンデショナーを得 ※30 【表7】

組 成	配合量
N α -ラウロイルアルギニンイソプロピルエステル塩酸塩	1
セタノール	5
やし油脂肪酸ジエタノールアミド	4
ジメチルポリシロキサン(1000cs)	1
ポリエチレングリコール400万	0.2
ワセリン	0.5
自己乳化型モノステアリン酸グリセリン	0.2
グリセリン	1
ヒドロキシエチルセルロース	0.8
防腐剤	0.2
精製水	残部

【0035】

【表8】

11

12

組 成	配 合 量
N α -ココイルアルギニンイソプロピルエステル塩酸塩	5
ベヘニルアルコール	7
ミリスチン酸イソプロピル	1
ジプロピレングリコール	3
ポリオキシエチレン(4)ステアリルエーテル	5
ジオレイン酸ポリエチレングリコール	0.5
ポリエチレングリコール	0.5
乳酸Na	0.1
防腐剤	0.1
精製水	残部

【0036】実施例12 毛髪用化粧水

*【0037】

表9に示す配合組成物を40~50℃で加熱溶解し、そ

【表9】

の後室温まで冷却して毛髪用化粧水を得た。

*

組 成	配 合 量
N α -ラウロイルアルギニンイソプロピルエステル塩酸塩	0.05
オレイルアルコール	0.2
流動パラフィン	0.5
エタノール	5
ソルビトール	4
ポリオキシエチレン(20)ラウリルエーテル	2.5
モノラウリン酸ソルビタン	0.5
色素	0.1
香料	0.1
防腐剤	0.1
精製水	残部